

人々は防災無線をどのように聞いているか —福島県における社会調査をもとに— How do people feel contents of public announcement? : Cases in Fukushima prefecture

大門信也

Shin-ya DAIMON

永幡幸司

Koji NAGAHATA

福島大学

Fukushima University

内容概要：防災無線が人々にどのように聞かれているかについて、放送が受容される、あるいは騒音とされる際の社会構造に注目し、複数の地区を対象にした調査を行なった。その結果として、防災無線で流される各放送内容は、住民の間で必要や不必要といった形で共有されていることが明らかになった。また、共有には地区に関わらない場合やある地区に限定している場合など様々なレベルが存在することがわかった。さらに、全ての放送内容が必ず共有されているわけではなく、放送を聞いたことがない/知らないといった世帯層によって、共有されていない場合もあることが明らかになった。

1. はじめに

市町村の運用する防災無線放送や町内会の運用する有線放送等の地区全体に聞こえるように鳴らされる放送は、その地区の住民に有用な情報を提供する目的を持つが、場合により騒音とされることもある。そこで、性格の異なる複数の地区を対象に、各地区へ向けた放送の実態調査と放送に対する住民意識の調査を行なった。本稿ではこれらの調査結果をもとに、放送がその社会でどのように聞かれているかについて、放送が受容される、あるいは騒音とされる際の社会構造に注目して検討する。

2. 調査対象地区の概要

2.1 聞き取り調査の概要

本研究の調査対象地域は、福島県郡山市の町内会K1、K2、K3、及び熱塩加納村の行政区A1、A2、A3、A4である。本研究ではまず、地区及び放送の実態を把握するため聞き取り調査を行なった。調査対象者は、郡山市では各マチの町内会長、熱塩加納村では役場防災無線担当者である。この結果をもとに、各地区の概要と放送の概要について述べる。

2.2 郡山市の各地区について

まず、郡山市で調査を行なった3地区の概要と放送の概要についてである。

郡山市では平成元年度より、町内会に1基の割合で防災無線設備の設置を進めており、災害情報、行政情報、毎日の時報（7時、12時、18時）を流している。

各放送設備にはマイクが設置されており、単体で独自の放送を行なうこともできる。

K1は、郡山駅より車で約15分程度の場所に位置し、町内会加入世帯が60世帯、非加入世帯が6世帯居住している。地区の大部分は田畑や林が占め、幾つかの集落が点在している。また、K1周縁部には小規模な新興住宅地型のエリアも存在する。古くは農業主体の町であったが、現在は世帯主の81.3%がK1の外で働いており、農業を営んでいても大半が兼業で、自宅用の作物を耕作するのみに止まる世帯も多い。また、2世帯家族が過半数を占め、居住年数も30年以上住んでいる世帯が79.5%を占めている。なお、近年転入してきた世帯は町内会に加入しない場合が多いとのことである。防災無線設備は、市の主導により設置されたもので、地区の中心部に設置されている。またK1では、防災無線以外に地区独自の有線放送設備を持っており、総会などの町内会行事に関するお知らせや、町内サークル開催日の告知などを行なっている。放送設備は、地区の中心部にある集会所に設置されたマイクと、北部と南部の2ヶ所に設置された拡声装置から構成されている。放送をする時は、始まりの合図として音楽を1分程度流している。その際使用する音楽についての規定は特になく、例えば町内会長は、その場にあるカラオケテープをそのまま流すとのことであった。また、有線放送の設置時期は現町内会長も知らないとのことであった。

K2はK1に隣接した新興住宅地である。地区の面積はK1よりも小さいが、世帯数はK1の5倍近くも

多い。世帯主の職業は、K 1 同様地区外に勤めに出る人が多い。世帯の形態は、K 1 と異なり 1 世帯が 48.9% と一番多く、居住年数も 30 年以上が 10% 未満となっている。防災無線設備は、平成 10 年に地区西北部でがけ崩れが起きた際、町内会から市へ要望を出して設置されたものであり、K 1 同様地区の中心部に設置されている。また、隣接地区の設備が地区の境界近くに設置されており、その音も地区内に聞こえている。K 2 町内会では毎月 1 回の町内一斉清掃で広場に人が集まった際、マイクを利用して清掃開始の合図や町内会関係の議事報告を行なっている。

K 3 は県内有数の温泉場にある一地区で、加入世帯は 226 世帯である。地区内には旅館が多くあるが、町内会に加入している世帯主の業種を見ると、旅館関係者は 2.7% と少ない。町内会長によれば、観光関係の従業員は宿舎に住んでおり、町内会には加入していないとのことであった。また、無職の世帯主が多く、46.8% となっている。世帯形態は、夫婦のみの世帯が 27.9% と一番多い。防災無線設備は市の主導により設置されたもので、地区の中心から外れた場所に設置されている。また K 2 同様に、隣接地区からの放送が地区内に聞こえている。さらに K 2 同様、マイクを利用して町内会の放送を行なっているが、放送内容は K 2 と異なり、廃品回収と町内の一斉清掃の告知を行なっている。

2.3 熱塩加納村の各地区について

次に熱塩加納村で調査を行なった 4 地区の概要と放送の概要について述べる。

熱塩加納村では、平成 12 年度より防災無線の放送を始めた。放送形態は、村内全戸に設置した屋内受信機と、屋外放送施設の併用である。屋外放送施設は集落単位で適宜設置されている。今回調査した 4 地区のうち、A 3 のみ屋外施設が設置されていない。なお今回のアンケート調査では、A 3 以外の地区に対しては屋内受信機から流される放送に対する意識だけでなく屋外施設放から流される放送に対する意識についてもたずねている。放送内容は、災害情報、行政情報、毎日の時報（7 時、12 時、18 時）などとなっており、村内行事に関する告知や学校情報を放送している点が郡山市と異なる。またこれら放送内容はそれぞれ、村役場内のコントロールルームにて、流す地区と流さない地区を切り替えることができる。さらに、こうした切り替えパターンをプログラムすることも可能である。

A 1 は K 3 同様に、温泉場を含む地区であるが、旅館を経営していない農家や村外で働いている世帯が 70% 近く存在する。また、各世帯の居住年数は大半が 30 年以上となっている。

A 2、A 3 は隣接しており、周囲に他の行政区が隣接する比較的密集した地域に位置する。両地区ともに農業従事世帯が約 30% となっており、A 3 では村外へ働きに出る世帯が 50% 近くに達している。居住年数は A 2 では大半の世帯が 30 年以上であるが、A 3 では 30 年以上の世帯が多いものの、30 年未満の世帯も少数ながら存在する。

A 4 は山間部に位置し、村の中心部から最も離れた集落の一つである。10 世帯が居住しており、村外で就業している世帯、無職の世帯、村内で働いている世帯が居住している。他地区よりも居住 20 年未満の世帯の割合が多い。また A 4 では、放送開始前に防災無線に関する説明会を行なったところ、都市部より移り住んでいる画家世帯が行政情報は活動の妨げになるため流さないで欲しいと要望したため、屋外では時報と災害情報のみに限定し流している。

なお、熱塩加納村の各地区では、郡山市下の各地区のような独自の放送は行なわれていない。

3. 放送に対する住民意識

3.1 アンケート調査の概要

アンケート調査の調査項目を表 1 に示す。

表 1 質問項目

	質問内容	回答形式
Q1	放送の聞こえ方	択一
Q2	聴いたことのある放送の種類	複数,自由記述
Q3	放送を聴くために行なうこと	複数,自由記述
Q4	うるさいと思った経験の有無とその理由	択一,自由記述
Q5	やめて欲しい放送の種類	複数,自由記述
Q6	新たに流して欲しい情報の有無とその具体的内容	択一,自由記述
Q7	放送施設更新または増設の必要性の有無	択一,自由記述
Q8	回答世帯の世帯構成	択一
Q9	回答世帯の居住年数	択一
Q10	回答世帯主の職業	択一

質問票の配布回収は、K 1 では留置法により、K 2、3 では町内会長に、A 1、2、3、4 では各区の行政区長に委託した。その他、郡山市における質問票の配布回収に関する概要を表 2、熱塩加納村における概要を表 3 に示す。

表 2 調査票配布回収に関する概要（郡山市）

	K 1	K 2	K 3
調査期間	2001 年 1 月中旬～下旬	2001 年 1 月上旬～下旬	2000 年 12 月中旬～2001 年 1 月上旬
調査対象	62 世帯	347 世帯	120 世帯
有効回答数	49 票	282 票	111 票

表 3 調査票配布回収に関する概要（熱塩加納村）

	A 1	A 2	A 3	A 4
調査期間	2001 年 7 月中旬～下旬			
調査対象	39 世帯	26 世帯	37 世帯	10 世帯
有効回答数	16 票	20 票	23 票	9 票

3.2 郡山市における集計結果

まず、郡山市におけるアンケート結果について示す。

3.2.1 聞いたことのある放送の種類

聞いたことのある放送についてたずねたところ、図1のような結果となった。これを見ると、各地区における町内会に関する放送は、K1では80%を超える世帯に知られているが、K2では20%程度の世帯にしか知られていないことがわかる。また、全地区において選挙日のお知らせがよく知られている。一方で、学校情報のような、防災無線で流していない情報を聞いたことがあるとしていることから、防災無線で何を流しているのかについて正確に把握していない層があることが伺える。

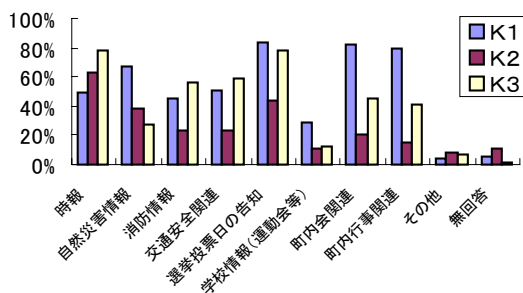


図1 聞いたことのある放送の種類

「その他」の自由記述部分には、放送内容についてではなく「聞こえづらい」や「聞こえない」といった記述が全地区で得られた。特にK2では自由記述の総数22件中、聞こえづらいとする回答が6件、聞こえないとする回答が6件、さらに、聞いたことがないとする回答が3件、わからないとする回答が2件得られた。これより住民の中には、放送自体を聞いたことのない層が存在することが伺える。この放送を聞こえないとした世帯については、3.2.6で検討する。

3.2.2 放送を聞くために行なうこと

放送を聞くために行なうことがあるかたずねたところ、図2のような結果となった。特にK1において、放送を聞くために何らかの行動する世帯が多く、放送

に対する意識の高さが伺える。「その他」の自由記述部分には、「外に出る」とする回答と、聞こえにくさに関する記述が全地区で得られている。K1からは、マチの放送施設に限定して何かをするという回答が得られた。これはK1においては、市の放送より地区の放送に対する関心が高いことの表れであると考えられる。また、K2からのみ「最近まで放送があることをしりませんでした」という回答が得られている。これより放送を聞いたことがない層のみならず、放送を流していることを知らない世帯層の存在が伺える。

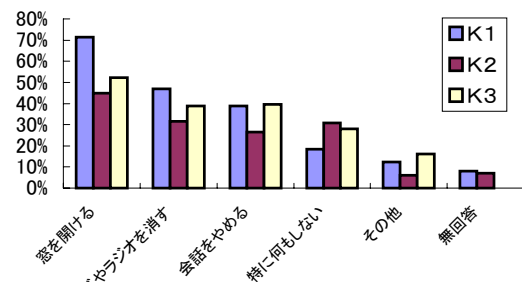


図2 放送を聞くために行なうこと

3.2.3 うるさいと思った経験

うるさいと思った経験があるかたずねたところ、全地区で「ない」と回答した世帯が80%を超えた(図3)。

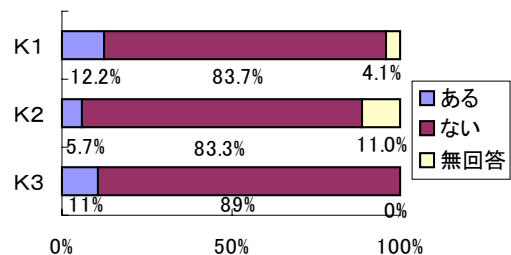


図3 うるさいと思った経験

「ある」と回答した世帯にどのような際にうるさいと思うかたずねたところ(表4)、全地区ともに、選挙投票日のお知らせという記述、早朝や子供の昼寝の時間のように放送時間に対する記述が得られた。またK1、K2共通の記述として、K1の放送に関する苦情が得られた。このK1の有線放送について言及した世帯を詳細に見てみると、K2ではK1と接するエリアの世帯からの回答となっており、その中には、行政区

表4 郡山市の各地区にけるうるさいと感られる放送についての自由記述

自由記述	K1	K2	K3
放送時間に関する記述：「朝の早い時」「設置したころ、朝7時のチャイムの音が大きく感じた」等	○	○	○
子どもの睡眠に関する記述：「子供が寝ている時」、「ねてる孫がおきてしまう」等	○	○	○
選挙投票日のお知らせに関する記述：「選挙投票日を知っているのに毎日放送する(市の放送)」等	○	○	○
K1の有線放送に関する記述：「K1で流す早朝の演歌を辞めてほしい もっと別の音楽を流してほしいです」等	○	○	
聞き取りにくさに関する記述：「聴き取りにくくかえって神経を使う」等		○	○
放送設備の隣接による生活障害に関する記述：「あまりにも近くに住んでいるので放送がなるとテレビの音が聞こえなくなる。放送が始まると犬も一緒に遠吠えを始めるのでどちらもうるさい。」等			○

表右の「K1」「K2」「K3」の各欄に記入された○印は、その地区に住む世帯から各項目に関する記述がアンケート調査より得られていることを示す。

上はK1でありながらK2町内会に入っている世帯も含まれている。またK1では、中心部からは有線放送に対する苦情が出ておらず、新興住宅地型である南部のエリアからのみ苦情が出ていた。これらよりK1の有線放送は、K1から離れK2町内会に入った世帯、さらにはK1でも歴史的な背景の異なるエリアでは必ずしも受け入れられていない様子が伺える。

3.2.4 やめて欲しい放送の種類

やめて欲しい放送があるかたずねたところ、「無回答」の世帯がK1で**91.8%**、K2で**84.8%**、K3で**83.8%**であった。それ以外(図4)では、全地区ともに「選挙投票日のお知らせ」をやめて欲しいとする世帯が比較的多く、**4.2**の結果なども合わせて考えると、選挙投票日のお知らせは地区を越えて不必要とされている情報であることがわかる。

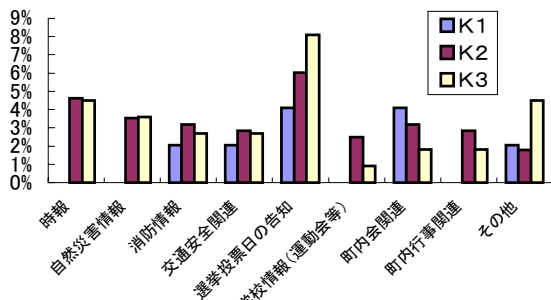


図4 やめて欲しい放送の種類

K1には「その他」の自由記述部分に回答した世帯はなかった。一方K2では、K1の放送で演歌(放送前の音楽)を流すのをやめて欲しいという回答が**20**件中3件、「聞いたことがない」という回答が2件得られ、その他は全て「(やめて欲しい放送は)なし」という回答であった。K3では、「聞きづらい」という主旨の回答が5件中2件あった。また、K2同様、残りの3件は全て「なし」という回答であった。

3.2.5 流して欲しい放送

流して欲しい情報があるかたずねたところ、基本的に全地区ともに「ない」が多かった。K2の場合無回答の世帯が多く、**1/4**近くに達している。

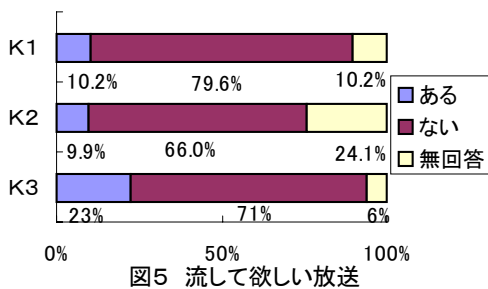


図5 流して欲しい放送

「ある」と回答した世帯に、どのような情報が必要

かたずねたところ、全地区で災害や非常時に関する情報を求める回答が多く、K1で5件中3件、K2で**27**件中**14**件、K3で**25**件中**22**件であった。災害に関わる情報は地区に関わらず、より多くの人に必要とされていることが伺える。特にK3では、**22**件中**17**件が「災害発生場所を流してほしい」といった内容となっており、災害に関しては他地区より詳細な情報を必要としていることがわかる。また、全地区共通の情報として、交通情報を流して欲しいという回答が得られた。この中で、K3では「交通情報(電車など)」と、電車に関する記述が得られているのに対し、K1とK2の場合、「朝の交通の渋滞情報、K1橋付近の交通情報、市内の主要道路」という記述が得られている。このことから、K1、K2における交通情報とは、両地区の共通の地区特性にもとづいて必要とされている情報と考えられる。さらに、K1、K2に共通した記述として気象情報を流して欲しいとする世帯があったが、K1においては農業に関する気象情報であるのに対し、K2では交通の便と絡めて考えている。つまり、同じ気象情報であっても、地区の特性により異なる意味を持っているのである。K2の自由記述には、この他に町内会の情報や市の情報を流して欲しいとする回答もあったが、**27**件中6件と災害情報よりも少ない。

3.2.6 放送を聞いたことのない世帯について

3.2.2 では放送を聞いたことがないとする世帯が少なからず見られた。こうした世帯の間で、何らかの傾向が見られるかについて検討する。

K2には、こうした世帯が**41**世帯あった。これら世帯の属性を見ると、住みはじめてから**2**年未満の世帯が比較的多かった。流して欲しい放送があると回答した世帯は1世帯のみで、「自然災害情報 消防情報」を必要と回答している。

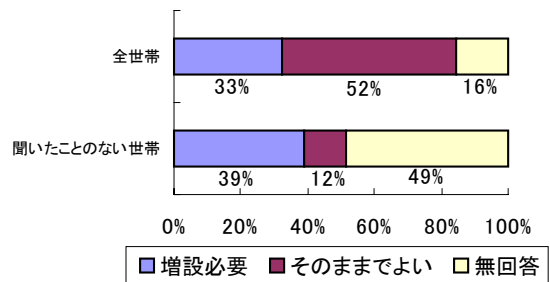


図6 K2の放送施設増設の必要性

アンケートでは、放送設備増設の必要性についてたずねている(図6)。全世帯の場合ではそのままよいとする世帯が半数以上いるのに対し、放送を聞いたことのない世帯のみで見ると、そのままよいと回答した世帯が**12.2%**と大幅に減り、全世帯の結果とは逆に「増設する必要がある」と回答した世帯の方が多

くなっている。これより、K2には特に必要とする情報が無くても施設の増設を望む世帯が存在することが確認される。なお同様の回答は、K1には2世帯、K3には1世帯のみであった。

3.3 熱塩加納村における集計結果

次に熱塩加納村で得られた調査結果を示す。

3.3.1 聞いたことのある放送の種類

屋内受信機から流れるのを聞いたことのある放送の種類については、図7のような結果が得られた。

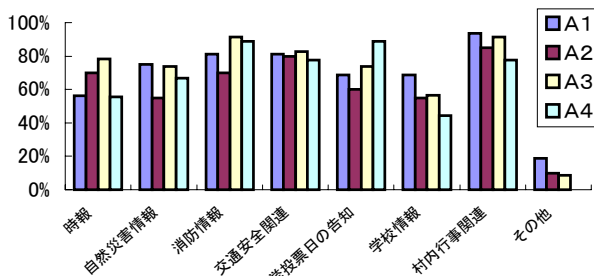


図7 聞いたことのある放送の種類

A4でのみ選挙投票日のお知らせを聞いたことのある世帯が一番多く、他の3地区では村内行事に関するお知らせを聞いた世帯が一番多い。また、屋内受信機の放送を全て聞いたことがないと回答した世帯は、A1で1世帯、A2で3世帯、A3で1世帯であった。

「その他」の自由記述部分には、A1から「行方不明者」、A2から「ゴミだし」という回答が得られた。

次に屋外で聞いたことのある放送の種類についてたずねた結果を図8に示す。

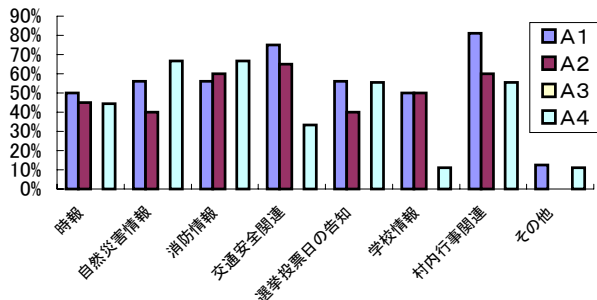


図8 屋外で聞いたことのある放送の種類 (A3は屋外で放送されていない)

これを見ると、屋外での各放送内容は屋内受信機からの放送よりも聞かれていない場合が多いことがわかる。またA4では、流されていない放送内容に対しても聞いたことがあるとする世帯が存在する。放送を全く聞いたことのない世帯はA1で1世帯、A2では4世帯、A4で1世帯と屋内受信機の場合と大きな差はなかった。「その他」の自由記述部分には「たずね人」「行方不明者が発生」という回答が得られている。

熱塩加納村における聞いたことのある放送の種類は屋外、屋内ともに、郡山市(図1)に比べ地区間の差が小さいことがわかる。これは屋内受信機が全世帯に配備されているため、どの地区においても村で放送を流していることがよく知られているためと考える。

3.3.2 放送を聞くために行なうこと

屋内受信機の放送を聞くために特別にすることがあるかについてたずねたところ、図9のような結果が得られた。

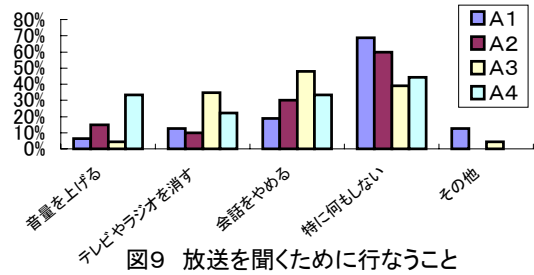


図9 放送を聞くために行なうこと

A3以外の全地区で何もしないとする回答が一番多く、特にA1ではその割合が高い。郡山市と異なり「特に何もしない」と回答した世帯が多く得られたのは、3.3.1と同様に屋内受信機が配備されているためであろう。

3.3.3 うるさいと思った経験

屋内受信機からの放送に対するうるさいと思った経験があるかたずねたところ、図10の結果となった。

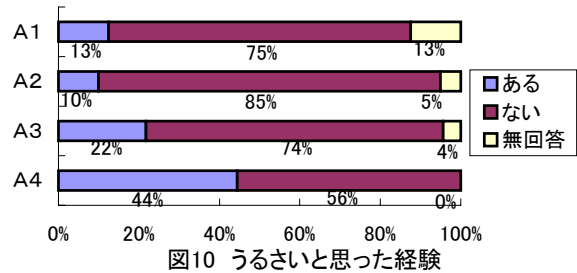


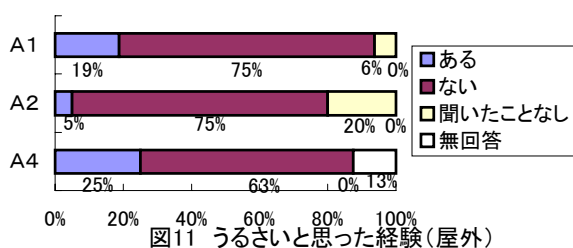
図10 うるさいと思った経験

A4以外の全ての地区において、うるさいと思った経験がない世帯が70%を超えているが、A4においては「ある」世帯が44.4%、「ない」世帯が55.5%と、うるさいとする世帯が半数近くに達している。またA4以外の3地区では、A3でうるさいと思った経験があると回答した世帯が21.7%となっており、A1、A2の2倍近くとなっている。次に、どのような際にうるさいと感じるかについてたずねた結果を表5に示す。これを見ると、郡山市の結果同様、選挙投票日のお知らせについての苦情があることがわかる。郡山市ではなかったものとして、交通安全のお知らせに対する批判、そして防災以外の情報を流すこと自体に対する批判が見られる。

表5 熱塩加納村の各地区にけるうるさいと感じられる放送についての自由記述

地区	記述	居住年数
A1	交通安全のお知らせ。毎日の時があった	30年未満
A1	「選挙当日の棄権防止のためでしょうがあまりにも放送の回数が多すぎて「うるさく」思っています	30年以上
A2	テレビ等 いい時間に流されるので	30年以上
A2	選挙関係何回も何回も同じことを流す。自然災害情報などは何回も流してほしい	30年以上
A3	必要がない放送を長くいたら放送した時。時報が長すぎる。	2年未満
A3	防災以外の情報が多すぎる	30年以上
A3	以前に時間を間違えて放送した時	30年以上
A4	集中して行なう事の最中に一方的に流れてくる音は雑音として感じられ、音の公害と言わざるを得ない	10年未満
A4	安眠中のサイレン（消防訓練のサイレン）	10年未満
A4	本当に重要（例えば自然災害に関すること）な事のみ流してほしい。交通安全の呼びかけなどとして防災に関係ないことが毎日流されていると聞かなくなり、聞かなくてはならない重要な情報を聞きのがす。	10年未満
A4	寝室にあるため夜寝ているときこまったことがあった	10年未満

屋外の放送に対してうるさいと思った経験の有無についてたずねたところ、図11の結果となった。

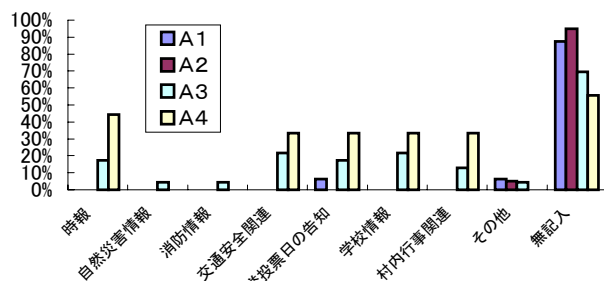


A1では、屋内受信機の場合よりもうるさいとする世帯が多くなっている。A1でどういった時にうるさいと感じるのかについてたずねたところ「音が大きい」「近かったので音が高い」といった音の大きさについての記述が得られており、屋外施設の設置場所や音量等が、適切でないことが伺える。また、「役場の側の方では棄権率を少なくするためにあまりにも頻繁に放送するので『うるさ』すぎます」と選挙関係の放送についての記述も得られている。A2とA4では、うるさいとする世帯が屋内受信機の場合よりも減っている。A2では、「和音する為家のボリュームを低くしている」とする回答が得られている。A4では「仕事で集中している時の連絡事項。安眠している時のサイレン」、「防災無線といいつつ村の連絡事に使用されているのは極めて不愉快」という回答が得られている。

以上のように、屋内、屋外ともに選挙投票日のお知らせや交通安全の案内といった防災以外の放送に対する批判が出ている。役場職員によれば、選挙に関しては、知事選の際に投票率を上げる目的で選挙投票日のお知らせを多く流した結果、苦情が多く出たため、それ以降は期間中に数回流すのみにしたとのことである。ところで、行政関係の情報をよりも、災害情報のような必要な情報に重点を置くべきという提言的な記述は、郡山市では得られなかった記述であり、防災無線が熱塩加納村の住民に意識されている様子が見える。

3.3.4 やめて欲しい放送

流すのをやめて欲しい放送についてたずねたところ、図12の結果となった。



A1、A2に無記入の世帯が多く、A3、A4はそれに比べ少ない。特にA4では、無記入の世帯が50%程度に止まっており、他地区に比べ多くの世帯が、各放送に対して流すのをやめて欲しいとしている。次いでやめて欲しい放送が多いのはA3となっており、A3でのみ災害放送に対してもやめて欲しいとする世帯が存在している。「その他」の自由記述部分にはA2より、「定期的なものは毎日流さなくてよい」、A3より「放送しなくても支障がないもの」という回答が得られた。

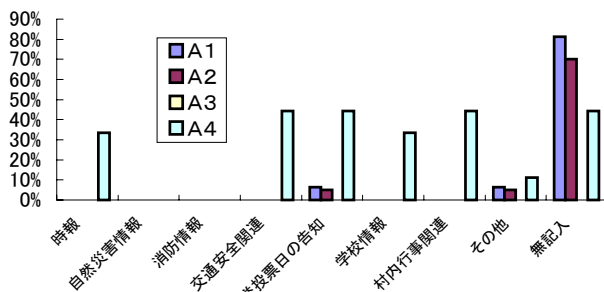


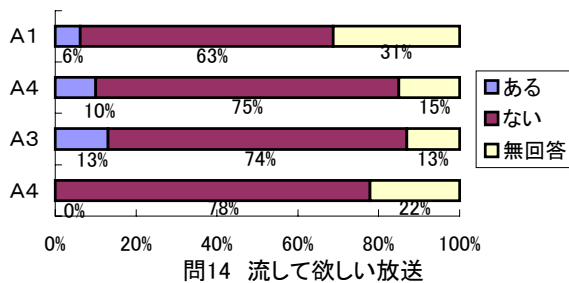
図13 やめて欲しい放送の種類(屋外)
(A3は屋外で放送されていない)

屋外の放送をやめて欲しいとする世帯が多いのもA4で、他地区ではほぼ見られない(図13)。地区内

で流されていないにも関わらずこのような結果となったのは、A4の住民が他地区で放送を聞いたためと考えられるが、同時に、A4に住む一部住民の放送に対する批判の大きさが伺える。また、選挙投票日のお知らせのみ、3地区全てにやめて欲しいとする世帯が存在している。「その他」の自由記述部分には「(やめて欲しい放送は) ない (A1、A2)」と現在の放送を受容していることを強調する記述と、「自然災害情報と消防情報のみにするべき (A4)」と3.3.3同様、災害関係の情報を重要視する旨の記述の両者が得られている。

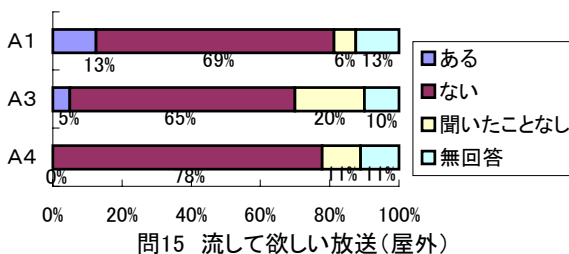
3.3.5 放送に対する要望について

屋内受信機で現在の他にさらに流して欲しい情報があるかどうかたずねた (図14)。



A4ではあると回答した世帯が存在しない。他3地区においても、あると回答した世帯は15%以下にとどまっている。「ある」と回答した世帯にどのような情報が必要かたずねたところ、A3より「気象情報で特に警報等が発令されて、それがその地域に必要と考えられる情報」や「村外の情報 (災害、消防)」と、3.3.3、3.3.4 同様に災害情報を重視する記述が得られている。またA3からはK1同様、農家から「行政以外の情報。気象情報」という記述も得られている。その他にA1から「時報」という記述が得られている。

屋外でさらに流して欲しい情報があるかどうかたずねたところ、図15のような結果となった。



次に、どのような情報が必要かについてたずねたところA1より「(村の施設) 色々の情報を放送して居りますが、山の作業中は聞えません。何か良い方法を考えて下さい。」という防災無線自体を必要な情報としている記述が得られた。これより防災無線をどこにいても聞くべき放送として受容する世帯の存在が伺える。

4. 考察

4.1 必要とされる情報について

以上の結果を踏まえ、地区へ向けた放送に対する住民意識について考察していく。まず、住民に必要とされている放送内容についてである。自由記述には、郡山市でも熱塩加納村でも同様に災害情報に対する要望が得られた。これより地区に関わらず必要とされている情報の存在が確認される。さらにこうした記述は、他の内容の記述に比べ多数得られている。これより、災害情報はより多くの人が共通に「必要な情報」という価値を与えている、つまり共有¹⁾している音であることが伺える。これは永幡ら²⁾のいう、市町村勢と放送内容との関係において、行政情報の方が災害情報よりも流すことが許されにくいという構造関係が、住民レベルにも存在することを示すものである。このことは、熱塩加納村において得られた「本当に重要 (例えば自然災害に関すること) な事のみ流してほしい」といった記述より明確に示されている。K1、2両マチにおいて必要とされる交通情報は、K3の場合と異なり、橋を渡ってしか郡山市街にアプローチできないという、両地区に共通した地理的条件により出てきた要望であった。これは災害情報と異なり、地区特性に関わり、ローカルに共有されている情報といえる。また、K1、K2、A3の自由記述ではそれぞれ気象情報が挙げられたが、農業を営んでいるか新興住宅地かという両地区の地区特性により、求められる情報が異なっていた。以上より必要とされる放送には、地区を越えて共有されているもの、隣接した複数の地区にローカルに共有されているもの、さらには各地区別々に共有されているものというように、様々な共有レベルが存在することがわかった。さらに、地区を越える形で比較的多くの世帯に共有されている災害情報でも、K3のように災害の発生場所を知らせて欲しいとし、他の地区よりも必要とされる情報がより詳細な場合もある。これは一見地区に関わらないように見えても、より詳細に見るとその地区の特性に関わりながら必要な情報が共有されていることを示している。箕浦ら³⁾のいうインテンシブ調査の重要性が、ここに確認される。

4.2 うるさいとされる情報について

次に、うるさいとされる放送について検討する。3.2.3と3.3.3に示したように、放送がうるさいとされる要因には音量のみならず、放送内容、時間、放送施設からの距離など複数の要素が見られた。特に熱塩加納村では、音の大きさに関する記述は屋外に対してのみ、時間に関する記述は屋内に対してのみにみられ、放送内容に関する記述は両者に見られた。否定的に扱われる放送内容としては、郡山市、熱塩加納村ともに

見られたのが、選挙投票日のお知らせであった。選挙投票日のお知らせは、地区の特性を越える形で否定的に共有されているといえる。熱塩加納村ではこれに加え、交通安全の呼びかけに対する苦情も出ており、災害情報を重視するとともに行政情報を批判する記述も見られる。これは前述の防災情報が行政情報よりも受容されやすいという構造を支持する結果といえよう。郡山市では、K1、K2両マチから、K1有線放送を「うるさい」とする回答があった。K1に住みながら有線放送に対し「うるさい」とした世帯は、新規参入者が多いK2の性格に類似するエリアに限定されていた。つまりK1の有線放送は、選挙投票日のお知らせと異なり、地区特性に関わり否定的に共有されている情報といえる。これらより、うるさいとされる放送もまた、必要とされる放送と同様、様々なレベルで共有されていることがわかる。

次に、なぜA4で屋外の放送が受容されず放送内容が大幅に限定されたかについて検討する。アンケート結果では、A4では防災無線放送をうるさいと感じる世帯が多く、その3/4が災害情報以外の放送をやめて欲しいとしている。さらに、ほぼ流されていない屋外放送に対しても屋内同様にうるさいやめて欲しいという反応が得られた。このような放送に否定的な反応をしている多くが居住年数の少ない世帯であり、その内、自由記述に提言的な記述をしているのは全て、前述の画家世帯であった。これら複数の世帯は、「災害関係のような必要最低限の情報のみ流し、放送を出来る限り少なくして欲しい」という価値観を十分に強く共有しているといえよう。そして、こうした世帯が狭い地区に一定程度集まって居住しており、それらの多くが画家活動という同一目的で都心から移り住んできた世帯であったことが、放送が限定される契機になったと考えられる。さらに村側が、この地区のみ流さないことができるような放送施設を有しており、住民の否定的な反応に対応する姿勢があったことが決定的な要因となり、放送が流されなくなるに至ったと解される。

4.3 共有していない世帯層の存在

その他、郡山市では熱塩加納村に比べ、世帯によって放送内容や設備の存在などの知識に相違がみられた。特にK2においては、3.2.6で示したように、放送を聴いたことがない世帯や、放送の存在自体を知らないような世帯が見られた。従って、放送をうるさいと思ったことはないとする世帯には、放送を聴いたことがない、もしくは放送の存在自体を知らない世帯も含まれている。これらは必要な情報も不必要な情報も共有していない層ということができる。つまり、地区に流される音は、必ずしも必要とされるかうるさいとされ

るかのどちらかで共有されているわけではなく、共有されていない状態も存在し得るのである。K2の場合こうした層の中に設備増設を要求する声があったが、その声によって必要とされないにも関わらず放送が増えてしまう事態も考えられる。

熱塩加納村では郡山市よりも放送内容がよく知られている。これは全戸に屋内受信機が配備されていることによる。また、A4以外の地区からも、本当に必要な放送に限定するよう主張する記述が得られている(3.2.3, 3.2.4)。こうした記述は郡山市では見られない。これらより、K2のような非共有層がK2ほど存在しないこと、つまり住民の多くが、放送を肯定するにせよ批判するにせよ、一定以上の関心を払っていることが伺える。このような場合、A4で見られるように放送を否定的に捉える世帯による異議申立が起りやすくなる一方で、必要とされていない放送が無批判に流されてしまう可能性は低いと考える。

5. 結論

以上より、防災無線の各放送内容は地区を越えて必要あるいは不必要として共有されているもの、地区特性に限定して共有されているものなど、様々なレベルで共有されていることがわかった。例えば、災害関係の情報は必要な音として地区を越えて共有されているが、行政関係の放送は不必要な音として捉えられる場合が多かった。また、交通情報や気象情報などは、地区特性によって必要のされ方が異なっていた。

さらに各放送内容は、必ずしも共有されているのではなく、全ての放送内容も聞いたことがない、放送自体を知らないような世帯層によって、共有されていない場合もある。こうした世帯層により、必ずしも必要とされていない放送が流されるという状況が存在していることが明らかとなった。

謝辞

本研究は、科学研究費補助金(奨励研究(A))の補助を受けた。聞き取り調査にご協力頂いたK1、2、3各町内会長、熱塩加納村佐藤義晴防災係長、また、アンケート調査にご協力頂いた、各地区の住民の皆様に感謝する。

参考文献

- 1) 永幡幸司: "集落中に響き渡る音についてのケーススタディー山口県の離島の場合一", 騒音制御, 21 巻 6 号 (1997), pp.410-418.
- 2) 永幡幸司, 大門信也: "防災無線で流されている放送内容と市町村勢の関係について—福島県における防災無線の実態調査(1)—", 騒音制御工学会講論集(2001), 印刷中.
- 3) K.Minoura, K.Hiramatu: "ON THE SIGNIFICANCE OF AN INTENSIVE SURVEY IN RELATION TO COMMUNITY RESPONSE TO NOISE", Journal of Sound and Vibration, (1997) 205(4), pp.461-465.